

令和元年度 新潟県地域づくり支援者サミット
～つながる新しい支援のカたち～

【教育×地域づくり】 ”学び“を起点に地域をつくる

自分から自分らしく みんなとともに社会をつくる人を育てる



NPO法人miraizu works 理事
認定キャリア教育コーディネーター
角野 仁美

miraizu worksとは？



「自分から 自分らしく
みんなとともに
社会をつくる人を育てる」を
ミッションに活動。
(学校教育・社会教育支援事業)



- ・設立8年目
- ・新潟市西区に事務所
- ・常勤スタッフ2名
非常勤スタッフ3名

みらいずworksの役割は？

1 社会の中で

「自分軸」と「社会軸」が育つ
キャリア教育の推進

人とどうかかわり、社会とつながっていくのかという「社会軸」。何を大事にして、どんな風に生きていきたいかという「自分軸」。この二つの軸を育て、子どもたちが自立して巣立つよう促す「キャリア教育」を目指しています。自分で課題を発見、解決し、他者と協働しながら考える探究型の学習に力を入れています。

例えば…



職場体験の充実化

仕事の可能性や働く人の生き方により深くふれられるように、職場体験ガイドラインや地域課題解決型のプログラムを提案しています。

キャリア教育マガジン
みらいずBOOKの発行
新潟の身近な大人の生き方やストーリーにせまり、天災へつながる仕事のアレコレを楽しくご紹介しています。



2 地域で

子どもの学びを支える
ネットワークの構築

これからの学びは、学校で教科書から学ぶものに加え、社会で生きた地域素材(人やリアルな課題等)から学ぶものへと変わりつつあります。そこで必要になるのは、地域での学びのサポート体制です。子どもたちが主体的に学び、地域・社会の担い手へと育つために、自治組織やNPO、行政等がつながり、学び合う場づくりや啓発活動に取り組んでいます。

例えば…

「みらせん」にいがた
教育フューチャーセンターの企画



3 学校で

社会に開かれた
教育課程・学校づくりの支援

変化の激しい社会の中で、学校現場では、思考力・判断力・表現力を育む「主体的・対話的で深い学び」への転換が求められています。さらに地域全体では、未来を担う子どもたちを支える仕組みとして「地域とともにある学校」づくりを目指しています。みらいずworksでは、教員や地域の研修、授業・学校の改革プロジェクトの支援などを行っています。

例えば…



みらいずカレッジの実施

「学びをつくる人こそ、学びつつ楽しい!と心底思えるように」、これからの学びを共に考え、深め、つながり、創り出す実践的な学びの場です。

授業改革プロジェクトの運営

「主体的・対話的で深い学び」を



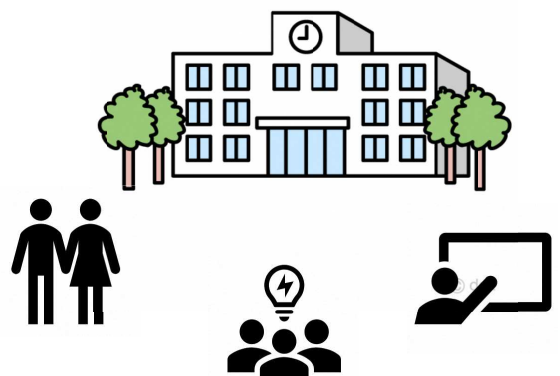
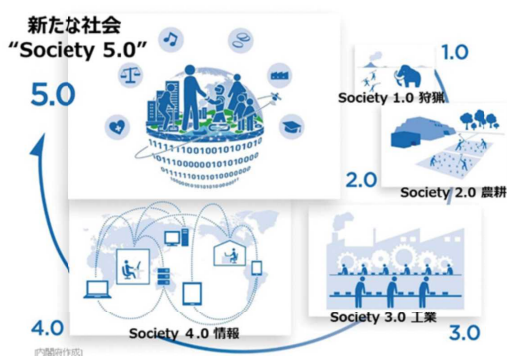




はじめに【前提】

社会の変化 → 学びの変化

* Society 5.0



H29.30改訂： **学習指導要領**（10年に1度変わる、国が定める教育の指針）

社会に開かれた教育課程

※各学校の教育計画のこと
学校で学ぶ内容を定めている

※もちろん計画だけでは意味がないので、
それを実行・評価し、PDCAを回していく
カリキュラム・マネジメントが大切

※文部科学省「新しい学習指導要領の考え方
～中央教育審議会における議論から改定
そして実施へ～」より

これからの教育課程の理念

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしなが、社会との連携・協働によりその実現を図っていく。

＜社会に開かれた教育課程＞

- ① **社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。**
- ② **これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育てていくこと。**
- ③ **教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。**

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における**「カリキュラム・マネジメント」**の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた 教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

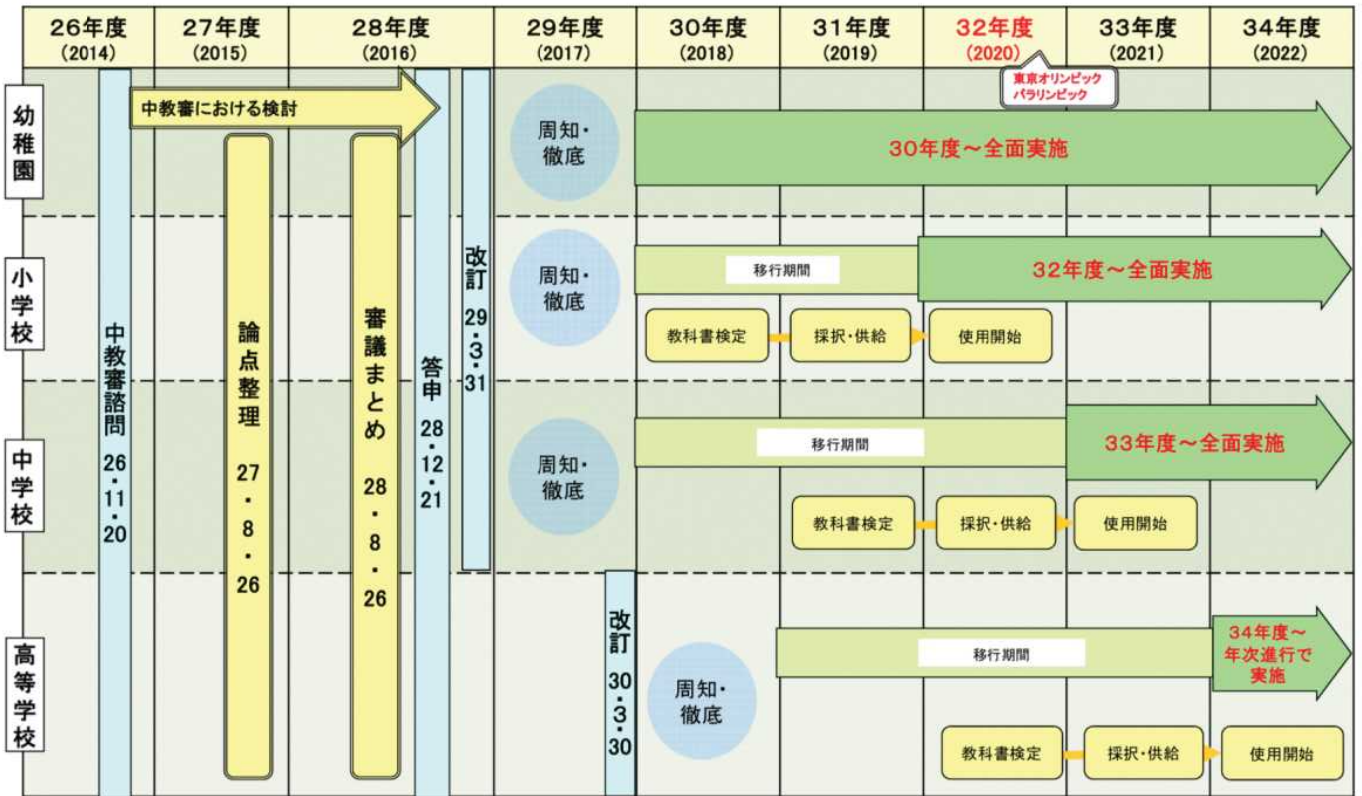
主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成
知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

※高校教育については、些末な事象的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革を進める。

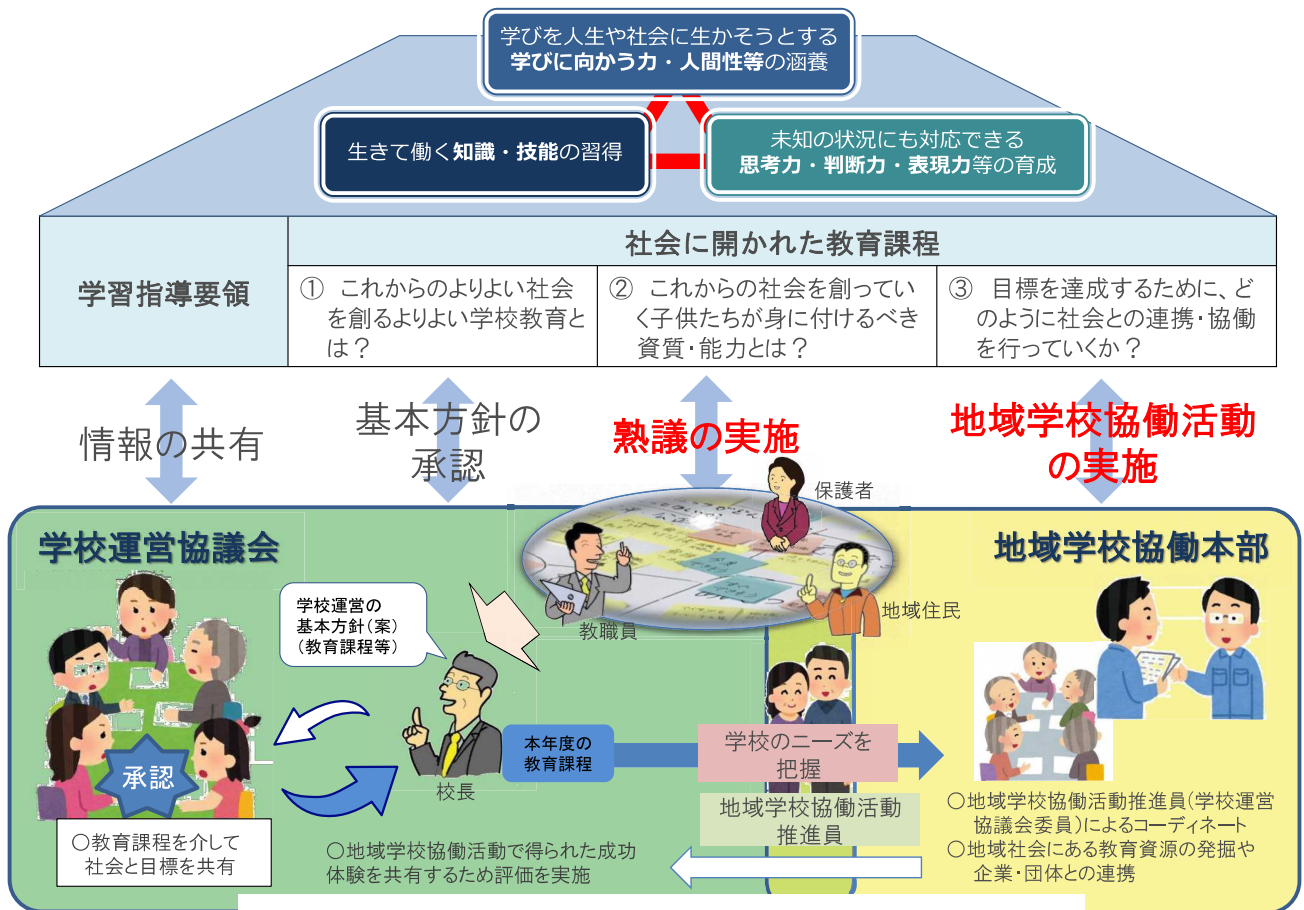
今後の学習指導要領改訂に関するスケジュール



特別支援学校学習指導要領(幼稚園及び小学部・中学部)についても、平成29年4月28日に改訂告示を公示。特別支援学校学習指導要領(高等部)についても、高等学校学習指導要領と一体的に改訂を進める。

小中学校では：コミュニティ・スクールの導入、推進が進んでいる

「社会に開かれた教育課程」の実現と「地域と学校の連携・協働」



高等学校の各学科に共通する教科・科目等及び標準単位数
〔改訂〕 〔現行〕

教科	科目	標準単位数	必修科目	教科	科目	標準単位数	必修科目
国語	現代の国語	2	○	国語	国語総合	4	○ 2単位まで併
	言語文化	2	○		国語表現	3	
	論理国語	4			現代文A	2	
	文字国語	4			現代文B	4	
	国語表現	4			古典A	2	
	古典探究	4			古典B	4	
地理 歴史	地理総合	2	○	地理 歴史	世界史A	2	□ ○
	地理探究	3			世界史B	4	□ ○
	歴史総合	2	○		日本史A	2	□ ○
	日本史探究	3			日本史B	4	□ ○
地学探究	3		地理B	4			
公民	公共倫理	2	○	公民	現代社会	2	「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」
	政治・経済	2			倫理	2	
	政治・経済	2			政治・経済	2	
数学	数学Ⅰ	3	○ 2単位まで併	数学	数学Ⅰ	3	○ 2単位まで併
	数学Ⅱ	4			数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	3			数学Ⅲ	4	
	数学A	4			数学A	5	
	数学B	2			数学B	2	
数学C	2		数学活用	2			
理科	科学と人間生活	2	□	理科	科学と人間生活	2	□ 「科学と人間生活」を 含む2科目 又は 基礎を付した科目を3 科目
	物理基礎	2			物理基礎	2	
	物理	4			物理	4	
	化学基礎	2			化学基礎	2	
	化学	4			化学	4	
	生物基礎	2			生物基礎	2	
	生物	4			生物	4	
地学基礎	2		地学基礎	2			
地学	4		地学	4			
保健 体育	体育	7~8	○	保健 体育	体育	7~8	○
	保健	2	○		保健	2	○
芸術	音楽Ⅰ	2	□ ○	芸術	音楽Ⅰ	2	□ ○
	音楽Ⅱ	2			音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2			音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2			美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2			美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2			美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2			工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2			工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2			工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2			書道Ⅰ	2	
書道Ⅱ	2		書道Ⅱ	2			
書道Ⅲ	2		書道Ⅲ	2			
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	○ 2単位まで併	外国語	コミュニケーション英語基礎	2	○ 2単位まで併
	英語コミュニケーションⅡ	4			コミュニケーション英語Ⅰ	3	
	英語コミュニケーションⅢ	4			コミュニケーション英語Ⅱ	4	
	論理・表現Ⅰ	2			コミュニケーション英語Ⅲ	4	
	論理・表現Ⅱ	2			英語表現Ⅰ	2	
論理・表現Ⅲ	2		英語表現Ⅱ	4			
英語表現Ⅲ	2		英語表現Ⅲ	2			
英語会話	2		英語会話	2			
家庭	家庭基礎	2	□ ○	家庭	家庭基礎	2	□ ○
	家庭総合	4			家庭総合	4	
情報	情報Ⅰ	2	○	情報	社会と情報	2	□ ○
	情報Ⅱ	2			情報の科学	2	
理数	理数探究基礎	1		理数	理数探究基礎	1	
	理数探究	2~5			理数探究	2~5	
総合的な探究の時間				3~6	○ 2単位まで併		
総合的な学習の時間				3~6	○ 2単位まで併		

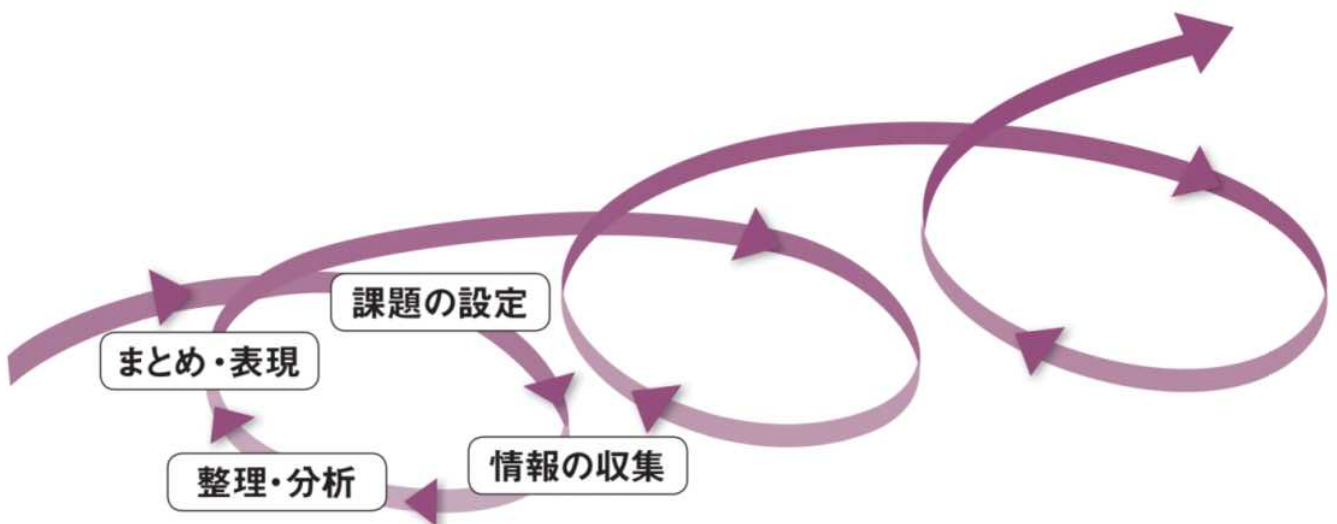
* 学習指導要領の改訂

新設教科

総合的な
学習
の時間

総合的な
探究
の時間

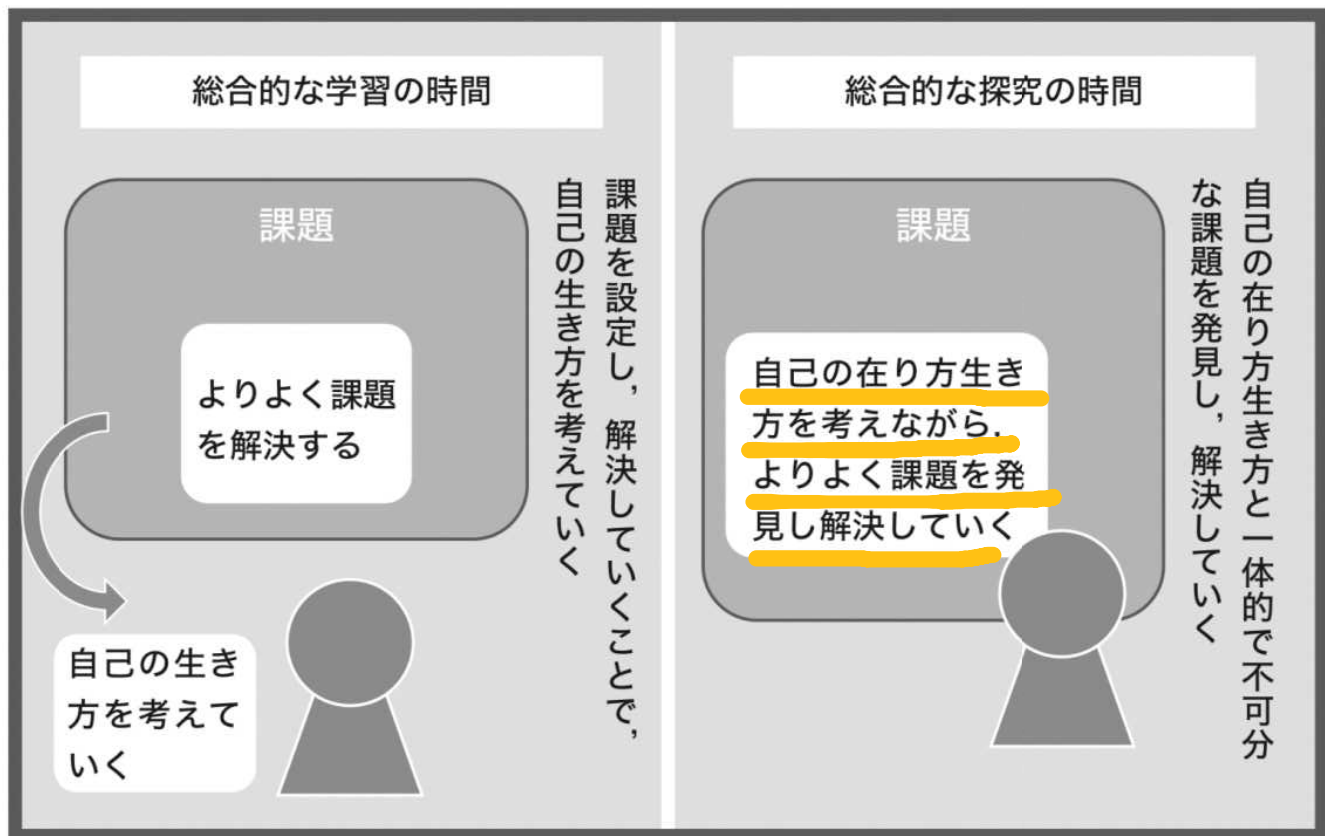
探究のステップ



■ 日常生活や社会に目を向け、生徒が自ら課題を設定する。

■ 探究の過程を経由する。
①課題の設定 ②情報の収集
③整理・分析 ④まとめ・表現

■ 自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される。



※総合的な探究の時間の特性【高等学校学習指導要領（H30年告示）解説より】

高校における学びの変化～ポイント～

個別最適化された学び

<ポイント>

- * 主体性（⇔ やらされ・画一的な学び）
- * 自分の興味関心をとことん探究する！



「自分の興味関心は？」 「何が自分の問いとなる？」

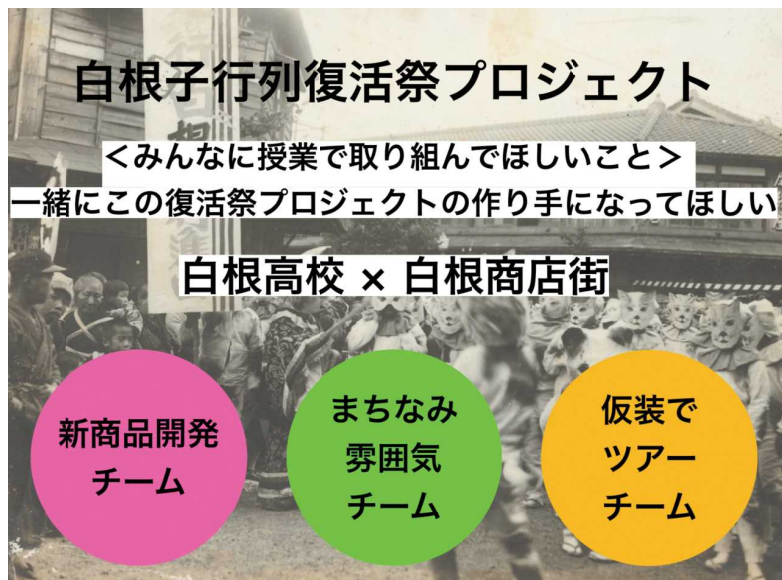
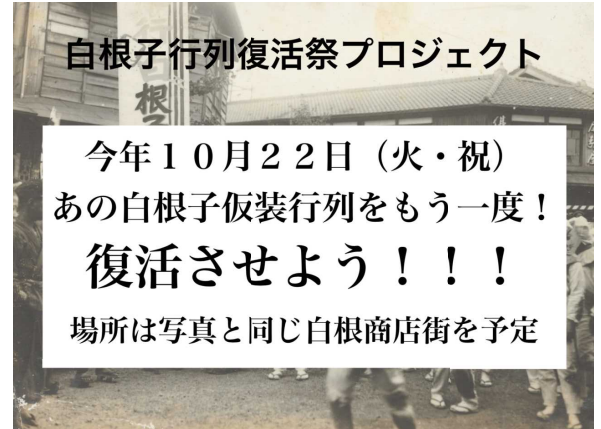
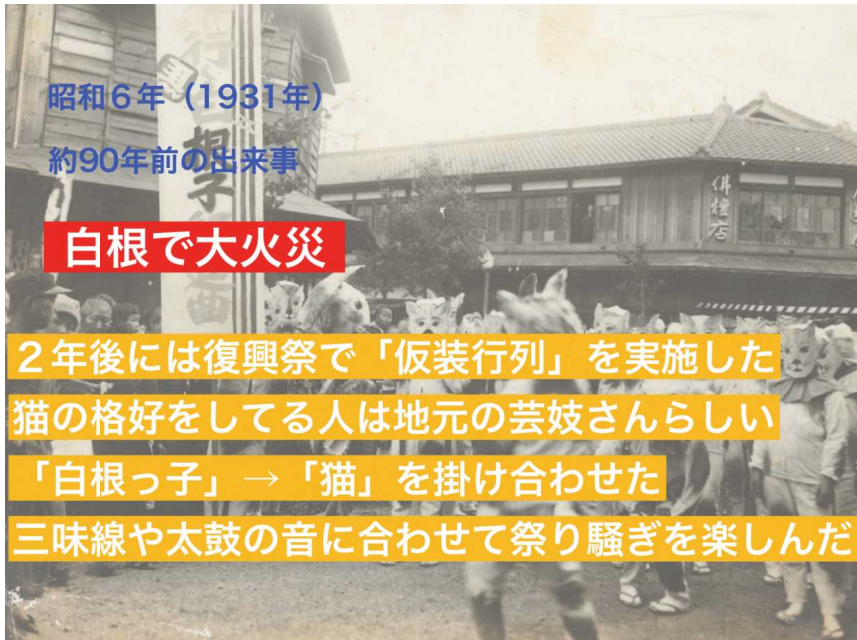
現場に触れ、自分の感性を研ぎ澄まし、感じる必要がある

学校の中だけでは無理・・・**地域の人や課題に触れることが大切**

★新潟県立白根高等学校 1学年 67名（2クラス）

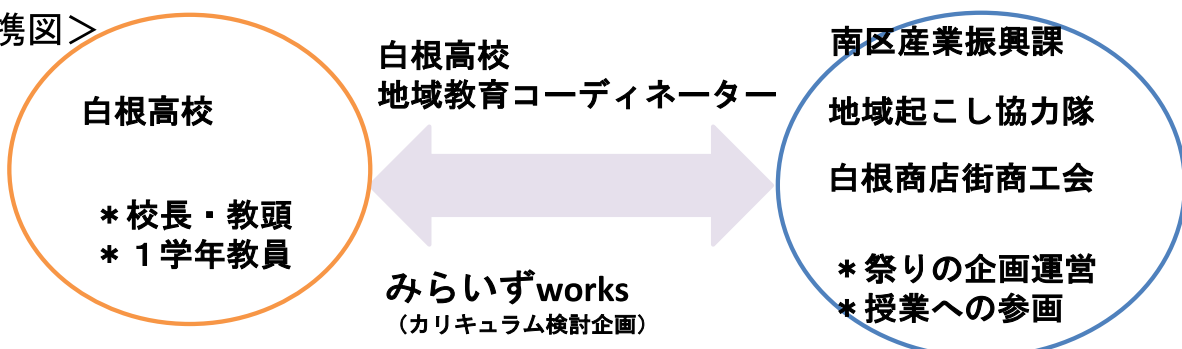
【総合的な探究の時間（年35時間）】

地域の祭り（白根子行列復活祭プロジェクト）の企画運営を行った



★生徒は3チーム、16グループに分かれてプロジェクトに参加

<連携図>



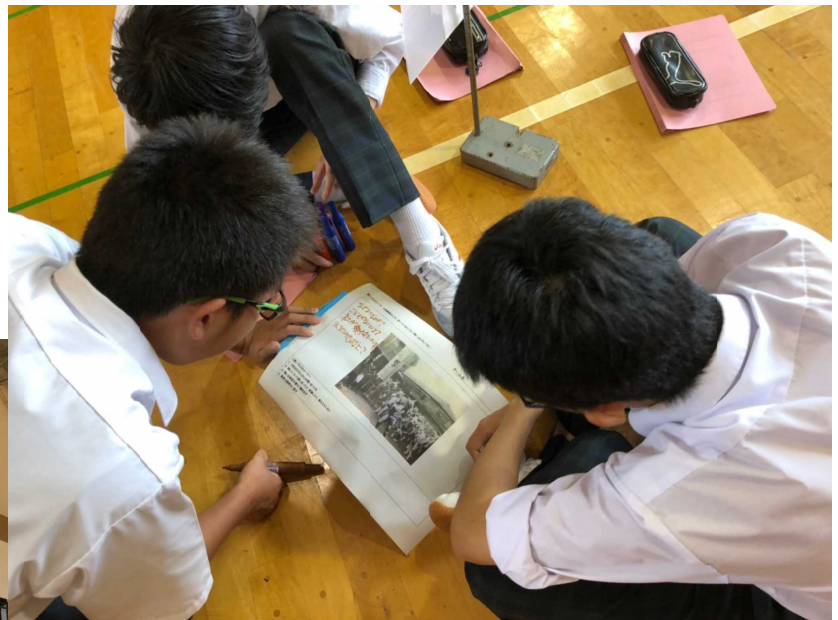
2019年「白根子行列プロジェクト」の流れ

- * 7月8日 「白根子行列プロジェクト」
オリエンテーション授業
- * 7月26日 各チームごとに情報収集など
- * 7月30日 白根商店街のまち歩き・インタビュー
- 31日
- * 8月30日 各チームに分かれてアイデアの検討
- * 9～10月 アイデアを改善・実行
★チームごとにヒアリングや連絡調整
- * 10月22日 「白根子行列祭り」当日
- * 10月26日 文化祭にて、成果の発表
- * 11月1日 学びの振り返り授業
- * 1月17日 学びの成果発表会

授業の様子

7月8日

- * 白根子行列について
新潟市南区地域起こし協力隊
蛭間さんよりレクチャー



- * 90年前の白根子仮装行列の
写真をテーマに問いづくり



プロジェクトを
自分なりの視点で捉える

7月30日、31日 白根商店街のまちあるきとヒアリング



★タウンガイドさんとまちあるき

天昌堂★



★商店街の店主にヒアリング

授業の様子

【白根子行進曲】当日 2019年10月22日（火・祝）



- * 8店舗で新商品コラボ
- * まちあるき
- * シャッターのペンキ塗り

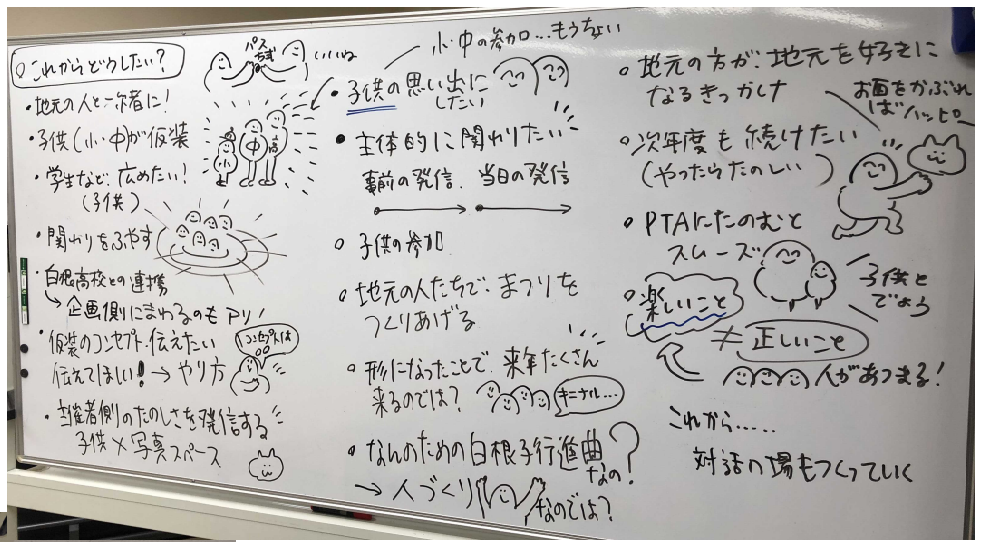


実行委員の振り返り会に
高校生が自主的に参加

「来年は企画に
1から関わりたい」



高校生もまちの担い手に



＜実行委員の声＞

「高校生が関わってくれたことが良かった」

「祭り前日、商店街に高校生がたくさん歩いている姿を見て、泣きそうになった」

「南区の人が、南区を好きになるためにこのイベントをやっていくべきなのでは」

「続けることが目的の祭りにしたくない」



白根地区公民館主催：「南区コミュニティ・コーディネーター育成講座」

- * 公民館主催で、**高校生を対象**とした連続講座を実施。
地域課題の発見・解決を促す、
コミュニティ・コーディネーター（CC）を育てることが目的。
- * 白根高校の有志生徒：約10名が参加。

* **コミュニティ協議会とコラボ**

コミ協からミッション提示
→その地域課題を解決する
アイデアを考え、提案する



昨年度のミッション：
大通地区のシルバー世代の住民の
コミュニケーションを深めるためのアイデアを考え、実行する



- ★チームづくり
- ★事前リサーチ、問いづくり

★地域でヒアリング、現状把握

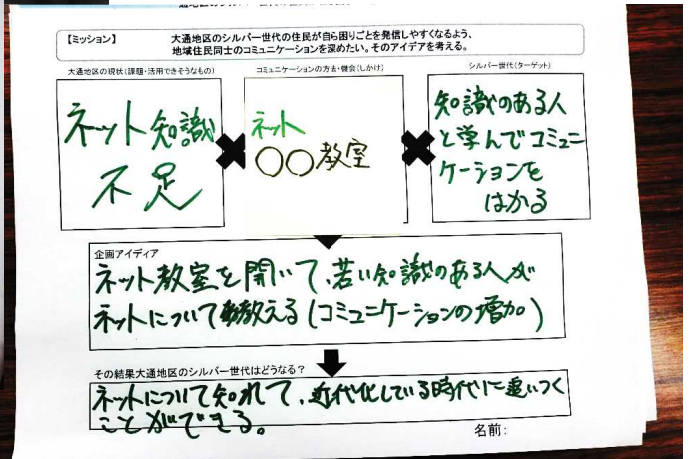
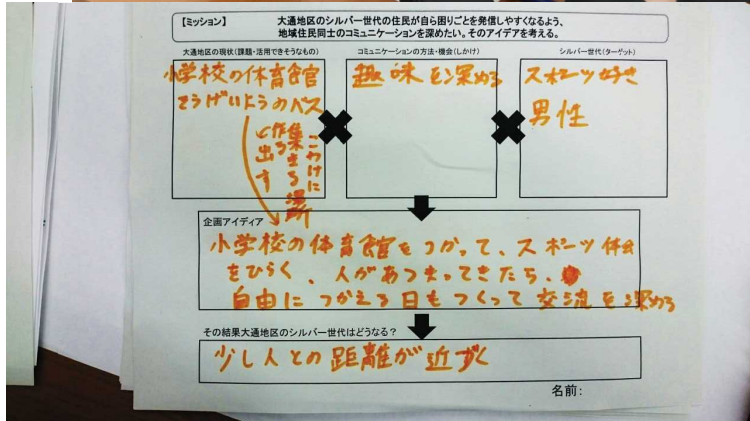




★ブレストによる
アイデア出し

★提案のまとめ

★プレゼン準備



★地域の方へ、ミッションに対する提案発表



★寸劇を交えながら、
企画をプレゼン

コミ協の方々に大好評でした

自分たちができることとして
「**高校生による
高齢者向けスマホ講座**」を提案

災害時の連絡手段になるなど、
スマホ使用の有効性について
プレゼンしました。



実際に地域で「スマホ講座」を2回開催

地域から僕たち高校生が必要とされていることが分かった

自分で考えたことが本当に実現できるとは思わなかった。やろうと思えば何でもできるんだなと感じた。



★大通地域生活センターにて
LINEの使い方をレクチャー
(携帯販売店とコラボ)



ちなみに今年の発表会は、2月10日(月)です！見に来てください！

白根地区公民館

白根高校生による 地域課題解決に向けた アイデア発表会

白根地区公民館主催「コミュニティコーディネーター育成講座」にて、受講生である白根高校生が地域課題解決方法を考える取組を行いました。
白根高校生が考えたアイデアを聞いてみませんか？

2月10日

(月)

16:00

(17:00終了予定)

開場15:30

会場 白根学習館

ラスベックホール

地域課題 (南区庄瀬地区からの課題)

住民の防災に対する意識を高めるには、どうしたらよいか？

入場無料

申込不要
どなたでもご覧いただけます

主催：白根地区公民館
協力：庄瀬地域コミュニティ協議会
庄瀬地区自主防災会
新潟県立白根高等学校
フッパナー：NPO法人みらいずworks

裏面も御覧ください

お問い合わせ：白根地区公民館

025-372-5533

(白根学習館内)

あらすじ

庄瀬地域では、近年の地震や台風など災害が頻発化・激甚化していることから、防災に力を入れたいと考えています。
防災訓練も毎年行っているが、参加する人は毎年同じ人ばかり。
「庄瀬地区に災害は起きないだろう・・・」
「1回参加しているからもういいや・・・」
「訓練の会場まで遠い・・・」
原因は、住民の防災に対する意識が低いからでは？
今後、地域が助け合って災害を乗り越えるためには、個々の意識改革が必要！
でも、いったいどうしたら意識改革ができるのか？
白根高校生の力を借りて、防災の関心を高め、いざという時に助け合いができるような地域を目指したい！

庄瀬地区から提示されたミッション
「住民の防災に対する意識を高めるには、どうしたらよいか？」

このミッションに挑むべく、白根高校1～2年生の生徒11名が立ち上がりました。

11名の内、庄瀬地区を知っていた生徒はなんと0名！
生徒たちは、学校の授業が終わった後、放課後の時間に活動します。
庄瀬の概要を学び、コミュニティコーディネーターとしてのスキルを学び、庄瀬地区の方々と接して、防災に関する情報収集を行い・・・

そして、課題解決のためのアイデアを考えました。

白根学習館へのアクセス

会場：白根学習館
ラスベックホール
(新潟市南区田中383)

実現したいこと



地域づくりの各現場に、
高校生を仲間として招き入れてもらう

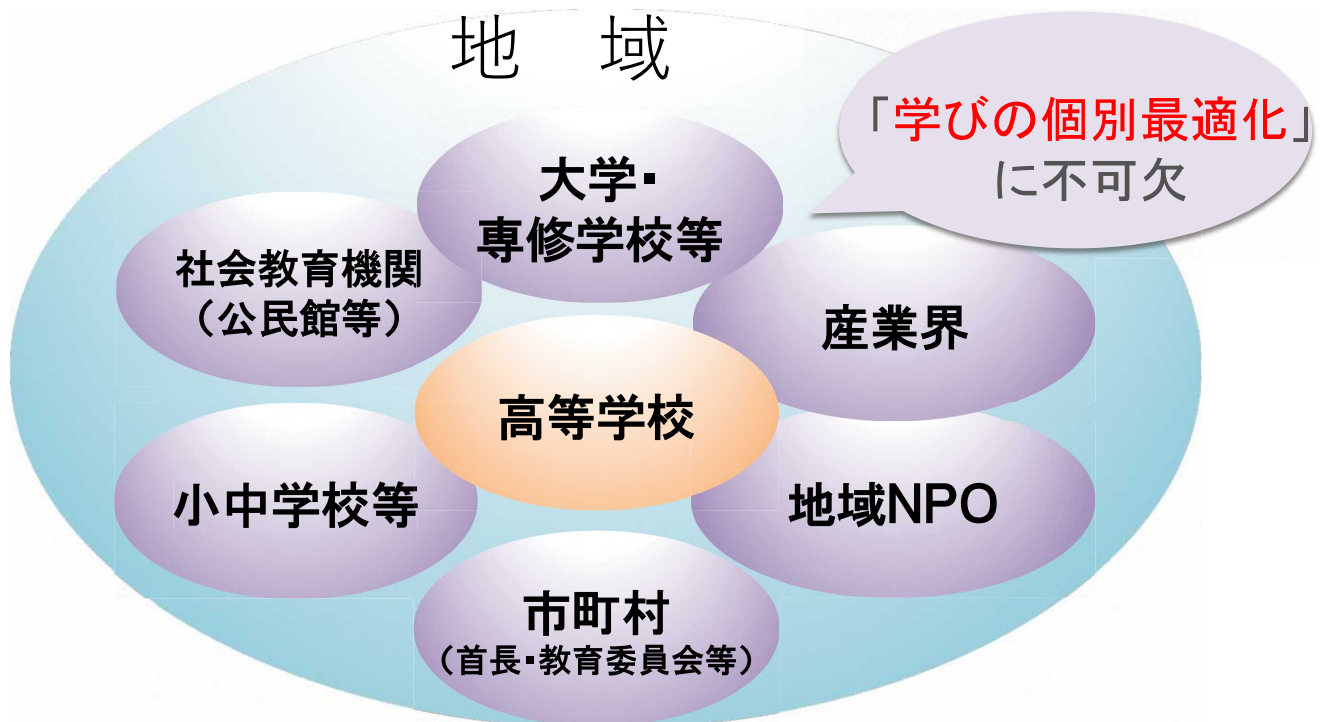
↓
 高校生の【個別最適な学び】が促される
 ↓
 地域も若者も元気に・・・！

地域づくりの現場と 高校生をもっと繋ぎたい！

★ふるさと理論（川喜田二郎）：
人は、創造性を発揮する経験をした地域を
自らの「ふるさと」だと感じるそう。

そのために・・・コンソーシアムの設立支援

各生徒の興味関心と地域の課題とを効果的にマッチングする組織



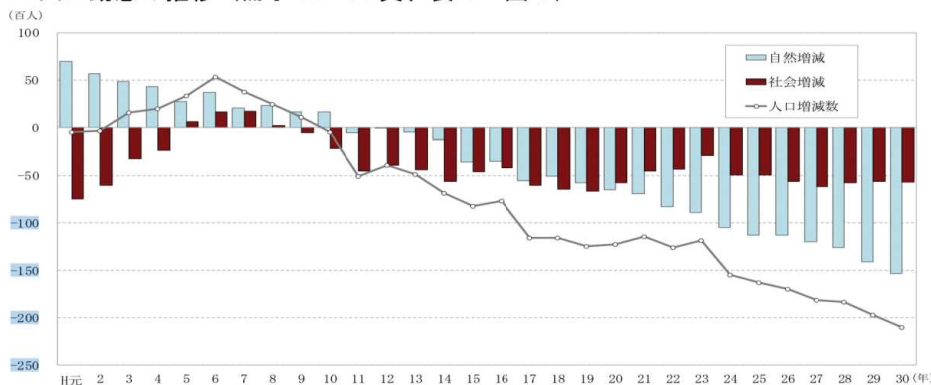
▶文科省事業アソシエイト採択の糸魚川市の事例を
モデルとし、各市町村への横展開への後押しをしたい

- * どんな時も、まず「聴く」
- * 背景にある事象やシステム全体を常に意識する
- * 仲間として、一緒に走る
…学び合うチームをつくる♪

ご清聴ありがとうございました

新潟県の課題

人口動態の推移（冊子 12～13 頁、表 4・図 5）

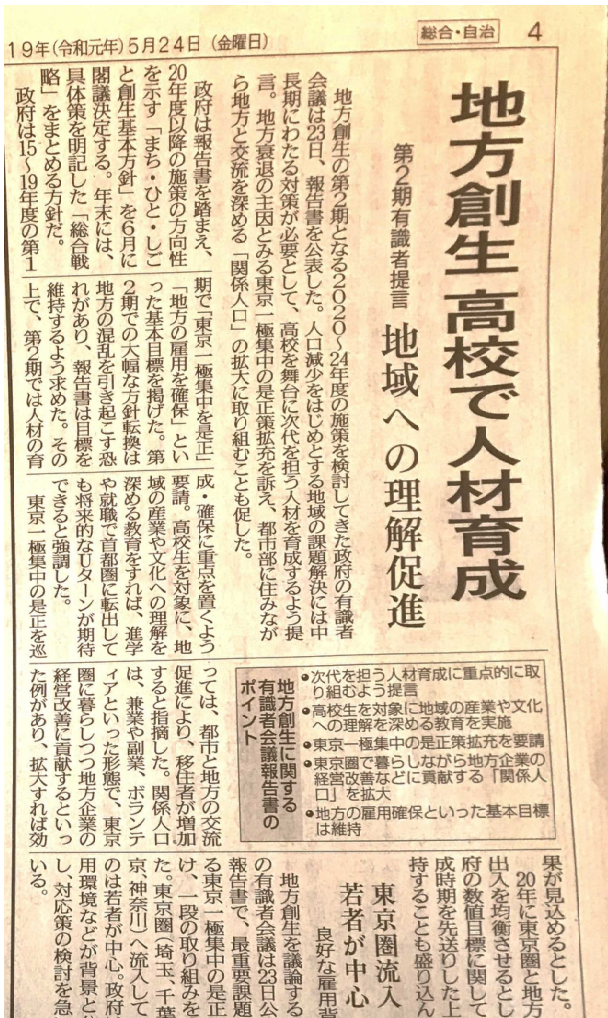


* 2018年の新潟県推計人口は、1998年から21年連続の減少。

* 「社会減少」は5696人で前年より拡大。若者の流出傾向に歯止めがかからず、20～24歳が3609人、15～19歳が1173人の転出超過で全体の8割超を占めた。

* 花角英世知事は5日の定例会見で、1年間で2万人以上が減少したことについて「非常に残念」と強調。

「特効薬がなかなかない中で、もう一段知恵を絞って努力を続ける」



第二期 地方創生の施策に 「人材の育成・確保に重点を置く」



高校生を対象に、地域の産業や文化への理解を深める教育を実施



進学や就職で首都圏に転出しても将来的なUターンが期待できると強調

新潟県としての取り組み

＊平成30年度～アカデミックインターンシップ

＊令和元年度～ 普通科高校における探究推進校を設置

- ・新潟東高校
- ・新発田南高校
- ・三条東高校
- ・新井高校



新高等学校学習指導要領を踏まえ、Society5.0を地域から分厚く支える人材の育成に向けた教育改革を推進するため、「経済財政運営と改革の基本方針2018」や「まち・ひと・しごと創生基本方針2018」に基づき、高等学校が自治体、高等教育機関、産業界等と協働してコンソーシアムを構築し、**地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組を推進することで、地域振興の核としての高等学校の機能強化を図る。**

高校生と地域課題のマッチングを効果的に行うためのコンソーシアムを構築



標準的な取組に加え、**地域の実情や人材ニーズに応じた取組を展開**

<p>【プロフェッショナル型】 〈専門学科中心10校程度〉 地域の産業界等との連携・協働による実践的な職業教育を推進し、地域に求められる人材を育成</p> <p>～特徴・取組例～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特産物の付加価値を高め安定的な食料生産により地域の発展を担う人材を育成 ・ものづくりに関する専門的な技術を身に付け、地場産業を支える人材を育成 など 	<p>【地域魅力化型】 〈普通科中心20校程度〉 地域課題の解決等を通じた学習を各教科・科目や学校設定科目等において体系的に実施するためのカリキュラムを構築し、地域ならではの新しい価値を創造する人材を育成</p> <p>～特徴・取組例～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携に係る教科横断的な単位を設定 ・衰退しつつある地域の振興方策を地域との連携により研究・実践 など 	<p>【グローバル型】 〈学科共通20校程度〉 グローバルな視点を持ってコミュニティーを支える地域のリーダーを育成。</p> <p>～特徴・取組例～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな社会課題研究のカリキュラム研究開発 ・海外研修等カリキュラムの中に体系的に位置づけ ・海外からの留学生を受け入れるなど外国人生徒と一緒に授業・探究活動等を履修 ・コミュニケーション能力を重視した外国語(複数外国語含む)の先進的な授業を実践 など
--	--	--

